リーディングDXスクール事業 【実践事例】

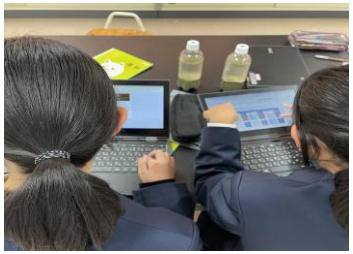
川西町立川西小学校（奈良県）

【取組内容】 複線型授業を通じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実

～大地のつくりと変化～

川西小学校6年生　理科

Ⅰ．子ども主体で学びを進める「複線型授業」を取り入れ、子どもそれぞれの個性をとｽﾀｲﾙを生かして授業を進める。Classroomに、学習するべき内容を投稿するが、学ぶ順番や学び方は自己決定させ、何を、誰と、どのように学ぶかをｽﾌﾟﾚｯﾄﾞｼｰﾄに入力・共有を図る。



Ⅱ．動画資料や理解度チェック問題、「学習の進め方例」も併せて示すことで、自主的な調べ学習を促す。同時に観察学習も進め、地層の様子や火山灰の特徴、たい積実験を行う。 ICT環境を活用し、「個別最適な学習」と「学びの複線化」が行われおり、学びたいものがすぐ手に取れることを意識した。

Ⅲ．子どもたちが学びを深めるために必要なものは何かという視点で内容を吟味してClassroomに投稿し、調べ学習を促す。単元のまとめは、ノート、スライド、ドキュメントから選択させ、ノートまとめの子どもも閲覧できるように共有ドライブを作成し、データ資料を投稿して他者参照できる環境を用意。